

奥越地方の動物

東谷 薫

岐阜県との県境、油坂峠の近くに源を発する、九頭龍川は大小幾多の支流を含せて下り、昭和43年5月完成の九頭龍ダムとなり鷲ダムを作り、和泉村朝日で、三面谷ダム、山原ダムを作つて来た。石徹白川と合流して更に北上し、湯上、東、西勝原発電所を通り打波川を合流して大野平野に出る。

一方和泉村と西谷村との境にある伊勢峠附近に源を発する笛生川は笛生川ダムを作り、中島で熊見川などと合流して真名川となり、大野平野にて九頭龍川と合流して更に北上する。この二川の沿革には殆んど平地らしい所がなく、大方が山嶽ばかり、海拔400mから最高（荒島岳）1524mまでの山地である。しかも原生林が多く、平地などに見る農薬などの被害もなく、動物達にとっては天国の様である。特に鳴禽類の宝庫とまでいわれる位で春から夏にかけての繁殖期には小鳥のコーラスでにぎやかである。只北国特有の積雪が多く、冬が長いために多小の支障がありそうだが、その反面他に見られぬ雪国特有の動物も亦可なり多い事である。

九頭龍川流域と真名川流域とは共に違いがなく似かよった動物相を呈している。

I 哺乳類

1 食虫目

(イ) トガリネズミ科

ホンシユウトガリネズミ、ホンシユウジネズミ、ニホンカワネズミ、は各地で見られ、後述のネズミ科のものと一様に、ノネズミはまたはハタネズミと呼んでいる。

(ロ) モグラ科

ヒメヒミズ、これは昭和43年7月18日、白馬洞に通ずる道路工事の為め路上に投げ出されていた成獣のめすを一頭捕獲した。福井県における初の確認かと思ふ。

ホンシユウヒミズ、コモグラをコモグラといひ

アヅマモグラ、コウベモグラをモグラコ、オオモグラといっている。

2 翼手目

(イ) オオコウモリ科、この科のものはいない。

(ロ) キクガシラコウモリ科

ニホンキクガシラコウモリ

(イ) ヒナコウモリ科 には、モモジロコウモリ、ヒナコウモリ、ニホンヤマコウモリなどを見るが、一様にコウモリコと呼んでいる。

3 霊長目

(イ) オナガザル科

ニホンザル、この地方では群をなすことなく一、二頭のいわゆるコケザルであり、ハグレザルである。20頭、30頭と群を作つて出て来た事がないとのことである。

ボスの座を追われたものか或は傷ついたり、病気などの為めに他のものと同一行動の出来なくなつた、いわば落伍者のサルが時に出没する位である。

4 兔 目

(イ) ナキウサギ科、この科のものはない。

(ロ) ウサギ科、には、ノウサギに属する、トウホクノウサギである。夏は暗褐色で腹面はやや白く、体長450～540mm位、尾は20～41mm、耳は70～82mm、足は145～165mmもある。冬になると真白にかわるものもある。

5 キツネ目

(イ) リス科 には、ニホンリス、ホンシユウモモンガ、ニツコウムササビがある。モモンガムササビをバンドリスと呼んでいる。ニツコウムササビは、ワカヤマムササビとの中間型であるとされている。

(ロ) ヤマネ科、ヤマネ これも ノネズミ、ハタネズミといつていて。

(ハ) ネズミ科、ホンドハタネズミ、ニイガタヤチネズミ、ホンドスマネズミ、ホンシユウカヤネズミ、ホンドハツカネズミ、などを見るがどれもこれも、ハタネズミ又はノネズミといつていて。

ニホンクマネズミ、ニホンドブネズミ、これは一様に、ネズミ又はイエネズミ、という。

6 食肉目

(イ) クマ科、ニホンワキノワグマ、奥越地方には400～500頭生息していると推定され毎年100頭前後捕獲される様で、ハンターには好目標である。

(ロ) イヌ科、オオカミ、昔は相当数おったらしいが1906年を最後に絶滅して、まことに残念な事と思う。

ホンドキツネ、ホンドタヌキ、乱獲のためその数最近特に減つて来ている。ホンドキツネは昭和42年より捕獲禁止となって保護される様になったが、タヌキも保護されてよいと思う。

(イ) イタチ科、ホンドテン、ホンドイタチ、これも非常に少なくなつて來た。ニホンイイズナ、ホンドオコジョ、これは昭和28年勝山で確認されているのでこの地方にも棲息するものと推定されるが未だ確認されていない。ニホンアナグマ、これは未だ相当数おるらしくこの地方では、ムジナ、タヌキ、ハチムジナ、などと色々に呼ばれている。

7 偶 蹄 類

(ア) イノシシ科、ニホンイノシシ、この地方には割に少なく時折見かける位で一頭も見ぬ年もあるという。

(イ) シカ科、ホンシュウシカ、これもまれで、何年目かに現われたとかいう位で、現われぬ年が多くなつたらしい。

(ウ) ウシ科、ニホンカモシカ、特別天然記念物で、時折出現することがある。昔は相当数捕獲したらしい。

II 鳥 類

1 エンジャク目

(ア) カラス科、この地方には、ハシボソカラスが殆んどで、ハンプトカラスは数が少ない、カケスは年中どこでも見られる。高山には、ホシガラかいるが余り多くない。

(イ) ムクドリ科、ムクドリは普通に見られ、コムクドリは夏、時折見受ける。

(ウ) キンバラ科、スズメはどこでも見られるが、ニユウナイスズメ、は殆んど姿を見ない。

(エ) アトリ科、この科の鳥は非常に多くシメ(冬) イカル(漂) コイカル(迷) オオカワラヒワ(冬) コカワラヒワ(留) マヒワ(冬) ベニヒワ(冬) コベニヒワ(冬) ベニマシコ(冬) ウソ(漂) オオマシコ(冬) イスカ(冬) アトリ(冬) ハギマシコ(冬) ミヤマホオジロ(冬) アオジ(冬) ノジコ(夏) ホオジロ(留) ホオアカ(漂) カシラダカ(冬) クロジ(漂) コジユリン(漂) オオジユリン(冬)

(オ) ヒバリ科 ヒバリ(夏)

(カ) セキレイ科 ピンズイ(漂) タヒバリ(冬) ハクセキレイ(冬) セグロセキレイ(留) キセキレイ(留)

(キ) メジロ科 メジロ(留)

(ク) キバシリ科、キバシリ(留) 余り数は多くない。

(ク) ゴジュウガラ科 ゴジュウガラ(留)

(メ) シジユウガラ科 シジユウガラ(留) ヤマガラ(留) コガラ(留) ヒガラ(留)

エナガ(留)

- (ル) モズ科 モズ(留) チゴモズ(夏) アカモズ(夏)
- (タ) レンジャリ科、キレンジャク(冬) ヒレンジャク(冬)
- (ツ) ヒヨドリ科 ヒヨドリ(漂)
- (タ) サンショウクイ科 サンショウクイ(夏)
- (ミ) ヒタキ科 サンコウチヨウ(夏) コサメビタキ(夏) エゾビタキ(旅) サメビタキ(旅) ムギマキ(旅) キビタキ(夏) オオルリ(夏)
- (タ) ウグイス科 キクイダダキ(漂) エゾムシクイ(夏) コムシクイ(旅) メボソムシクイ(夏) センダイムシクイ(夏) ウグイス(漂) ヤブサメ(夏) エゾセンニユウ(旅) シマセンニユウ(旅) マキノセンニユウ(旅)
- (ル) ツグミ科 トラツグミ(漂) マミジロ(夏) クロツグミ(夏) シロハラ(冬)
マミチャイジナ(冬) アカハラ(漂) ハチジョウツグミ(冬) ツグミ(冬) 県鳥である。昭和42年に指定される。ノビタキ(旅)、ジヨウビタキ(旅) ルリビタキ(夏) ノゴマ(旅) コマドリ(夏) コルリ(夏)
- (タ) イワヒバリ科 イワヒバリ(夏) カヤクグリ(夏)
- (ツ) ミソサザイ科 ミソサザイ(漂)
- (タ) カワガラス科 カワガラス(留)
- (タ) ツバメ科 ツバメ(夏) コシアカツバメ(夏) イワツバメ(夏)

2 アマツバメ目

- (1) アマツバメ科 アマツバメ(夏) ハリオアマツバメ(夏)

3 ヨタカ目

- (1) ヨタカ科 ヨタカ(夏)

4 ブツボウソウ目

- (1) ブツボウソウ(夏) 姿のブツボウソウ

5 ヒスイ目

- (1) カワセミ科 カワセミ(留) ヤマセミ(留) めったに姿を見せぬ鳥であるが、住み慣れた谷川が皆水没した為め営巣地を追われて淋しそうに珍らしく電線などに止ってるのが観察できる。アカシヨウビン(夏)

6 キツツキ目

- (1) キツツキ科 アオゲラ(漂) アカゲラ(留) オオアカゲラ(留) コゲラ(留)

アリスイ(旅)

7 ホトトギス目

- (1) ホトトギス科 ホトトギス(夏) カツコウ(夏) ツツドリ(夏) ジュウイチ(夏)

8 フクロウ目

- (1) フクロウ科 フクロウ(留) オオコノハズク(留) コノハズク(夏) 声のヅツボウソウで、仏法僧、仏法僧と鳴くのはこの鳥である。
トラフズク(夏) コミミズク(冬) アオバズク(夏)

9 ワシタカ目

- (1) ハヤブサ科 ハヤブサ(冬) チゴハヤブサ(迷) チヨウゲンボウ(漂) コチヨウゲンボウ(漂)
(2) ワンタカ科 イヌワシ(留) ノスリ(留) クマタカ(留) チユウヒ(冬)
オオタカ(留) ハイタカ(漂) ツミ(漂) トビ(留) オジロワシ(冬)
オオワシ(冬) ハチクマ(夏) サシバ(夏)

10 コサギ目

- (1) サギ科 ゴイサギ(留) コサギ(夏) アオサギ(留) ミヅゴイ(夏)

11 ガンカモ目

- (1) ガンカモ科 マガモ(冬) コガモ(冬) カルガモ(留) オシドリ(冬)(留)
ダムがいくつも出来たので水禽類の種類や個体が増えることと思う。

12 ハト目

- (1) ハト科 アオバト(夏) キジバト(留)

13 シギ目

- (1) シギ科 ヤマシギ(留) ダムが出来たので渡りの途中立寄るものが多くなることと思う。

14 ツル目

- (1) クイナ科 クイナ(夏) ヒクイナ(夏)

15 ジュンケイ目

- (1) キジ科 キジ(留) ヤマドリ(留) キジは余り多くないが、ヤマドリは多く、ハンターの好目標である。

※〔註〕 夏とあるの夏鳥で春季南方から渡来、本州で繁殖し秋季南方に去るもの

(留) 留鳥のこととて年間を通じて棲息地の著しい差異のないもの

(冬) 冬鳥で北海道以北で繁殖し秋季本州に渡来、翌春北方に去るもの

(漂) 漂鳥で季節的に多少棲息地を変えるもの

(旅) 旅鳥で春と秋、本土を通過し繁殖地と越冬地の間を渡り本土で繁殖も越冬もしないもの

(迷) 迷鳥で渡りの途中暴風雨に吹き飛ばされたり近似種々混じって偶然渡来したもので珍種である。

III 両 棲 類

1 サンショウウオ目

(イ) サンショウウオ科

クロサンショウウオ

この地方から岐阜県にかけての特産のもので珍しい種類である。体長100~160mm 脊はわりに短く、背面に11~12、腹面に10~11、の肋条をそなえ尾は脊よりも長い。

ハコネサンショウウオ

体は細長くてかなり大形暗褐色で中央部の全長にわたって橙紅色の巾広い縦条があり肋条は背面で13~15本 腹面で11~13本、体長は110~180mm 尾は体長の2分の1よりずっと長い。

(ロ) オオサンショウウオ科

オオサンショウウオ

体の背面は暗褐色で不規則な黒ぼい斑紋が散布している。脊の両側から腹面にかけて色が淡い。頭部がとても大きく体長500~1,200mm 尾は体長の3分の1位を占める。昭和35年確認される。天然記念物である。

(ハ) イモリ科

イモリ

背面は黒色で腹面は赤くて不規則な黒斑をそなえている。体長80~120mm 尾は体長の2分の1内外

2 カエル目

(1) ヒキガエル科

ヒキガエル

体色は季節により場所によって変るが、普通は黄褐色又は褐色で腹面は淡黄褐色をして
いる。体長65～140mm

(2) アマガエル科

アマガエル

体色を変える能力がある背面は緑色又は黄緑色で暗緑色又は暗褐色の斑紋をそなえてい
ることがある。指には吸盤があり体長25～40mm

(3) アカガエル科

ニホンアカガエル

背面は褐色又は赤褐色で黒っぽい斑紋が散在している腹面は汚白色又は淡黄色で胸の後部
や四肢の下面では赤みが強く時には美しい淡赤色を呈するものもある。体長40～70mm

トノサマガエル

平地にいるのと同様で人のよく知っているものである。体長60～90mm

ツチガエル

背面は暗褐色で腹面は汚白色40～50mm 他のカエルとは遅く冬眠からさめて産卵
する。

(4) アオガエル科

モリアオガエル

背面は緑色または暗緑色で場合によっては赤褐色の不規則な斑紋がある。腹面は灰白色
または黄味をおびた淡灰色をしている。普通は池や水溜の上の葉や小枝に泡状の卵塊を作
る。卵は黄白色で一卵塊の中に300～500個位ある。卵はある程度発育すると卵塊の
下部から水中におちて、ほかのカエルのオタマジヤクシのような生活をする。

カジカカエル

背面は暗灰褐色で個体によって緑色がかかる。腹面は黄白色で指には吸盤がある。6～
8月頃卵を産むおすは鳴き声の美しいのはよく知られている。体長おすは30～40mm
めすで50～70mm

N 爬虫類

1 カメ目

(1) カメ科

クサガメ

背甲は暗褐色で、それぞれの甲板の周縁が細く黄色に縁取られている。甲長は120～250mm 中には300mmもあるものもある。

イシガメ

(2) スツボン科

スツボン

クサガメ イシガメ スツボン、共に個体は余り多くない。珍らしい方である。

2 トカゲ目

(1) ヤモリ科

ヤモリ

灰色暗灰色又は灰褐色で不規則な暗色の斑紋があり腹面は白色又は灰白色である。指には吸盤があって天井や柱など自由に歩くことが出来る。

夜間電灯の周囲などに集って昆虫類を捕食する。

(2) トカゲ科

トカゲ

背面は褐色又は暗褐色で個体によっては緑色を帯びる、腹面は黄白色又は灰青色、尾は先端に近づく程色が暗くなる。体長160～210mm 尾は体長の5分の3～3分の2ぐらいいを占める。

(3) カナヘビ科

カナヘビ

背面は褐色または暗灰褐色で個体によって多少青味を帶びていることがある。体長160～220mm 尾は体長の3分の2ぐらいいを占めている。

3 ヘビ目

(1) ユウダ科

ジムグリ

背面は淡黄褐色または縁がかった淡褐色で小さい黒斑を散布し頭部の背面には四本の黒条がある。若い個体では背面が美しい赤褐色で多数の黒斑がある。体長700～950mm

シマヘビ

背面は緑色がかった黄褐色または褐色で胸背に4本、尾背に2本の黒褐色縦条がある。

体長850～1,500mm

カラスヘビ

これは、シマヘビの黒化した黒いヘビである。

アオダイショウ

体は褐色を帯びた濃いオリーブ色で3本（後方で場所によって4本）の黒ぼい縦条がある。腹面は背面より色が淡く、ニジ状の光沢がある。体長2,000～2,300mmくらいになるものもある。

シロマダラ

背面は淡灰褐色または灰褐色で胸に40個内外、尾に15～20個くらい黒褐色の横帶のあるきれいなヘビである。

体長300～700mm

ヒバカリ

背面は褐色または暗灰褐色で後方で多少淡くなる。腹面は頸部より前では黄色胴と尾では淡黄緑色である。

体長470～570mm

ヤマカガシ

褐色か暗褐色で頸部に大きい黒色斑紋がある。体長600～1,200mm

(四) マムシ科

マムシ

今までの、ヘビは無毒ヘビだったが、マムシは有毒ヘビの一種である。体色は非常に変異が多く、全体に赤褐色を帶びたものを、アカマムシ、黒みがかったものを、クロマムシなどという。

普通のものは背面は暗褐色で黒褐色の大きい斑紋があり、腹面には黒くて黄褐色または赤褐色の不規則な班斑がある。体長450～600mm

V 魚類

種類は多くないが、雪どけの頃から始まる。イワナ、ヤマメなどのつりから、盛夏にかけて、アユつりなどつり天ぐのにぎわう所である。

1 ギキ科

アカザ、和泉村では、アカリソコ、西谷村では、アカニコという。

2 ドジョウ科

シマドジョウ、アジメ、或は、アジメドジョウという。

3 カジカ科

カジカ、和泉村でビシ、石徹白でサフコ

4 サケ科

イワナ、ヤマメ、ニジマス、サケ、マス

5 コイ科

コイ、フナ、ウグイ、カマツカ、アブラハヤ

6 アユ科

アユ、この地方ではアイという。

VI 昆虫類

この地方は昆虫の宝庫である。6、7月頃の一晩誘蛾灯をつけるなら数百種の色々な昆虫が採集される。最近この地方で発見された、蝶、蛾、甲虫類の種類も非常に多い。平地の様に農薬などによる被害も少なく個体の数もはるかに多い。昆虫採集家のあこがれの地であるが未だ充分な調査が行なわれていない。

蝶ではヤマキチヨウ、ヒヨウモンチヨウ、ギンボシヒヨウモン、クジャクチヨウ、オオミスジ、フタスジチヨウ、シータテバ、エルタテハ キベリタテハ、ツマグロウラジヤノメ、その他、アカシジミの類、オナガシジミの類、ミドリシジミの類などの珍品が多い。

蛾では、シヤチホコガ科の、ナカクロモリメ、ヤガ科の、スギタマゴマケンモン、トラガ科の、トラガ、コトラガ、など貴重なものが多い。

ハンミヨウ科のアイノハンミヨウ、ホソクビゴミムシ科の、アオボソゴミムシなどはこの地方で特記すべき貴重なものである。

VII 貝類

この地方の貝類は大部分陸産の貝で淡水産の貝類は数種で陸産のものは山地性のものである。

キセルガイ、マイマイ類は特に有名である。

1 淡水産貝類

-
- (1) タニシ科 マルタニシ、オオタニシ
 - (2) カワニナ科 カワニナ、ミスジカワニナ、オオカワニナ
 - (3) イシガイ科 マツカサガイ ヌマガイ

2 陸産貝類

- (1) ヤマキサコ科 モミヂヤマキサゴ
- (2) ヤマタニシ科 ヤマタニシ、ミヂンヤマタニシ、ゴマガイ
- (3) キセルモドキ科 キセルモドキ、エチゴキセルモドキ、フトギセルモドキ
- (4) キセルガイ科 オオギセル、トノサマギセル、オクガタギセル、本種はキセル貝類が全部左巻なるに反して右巻きである。

ハゲキセル、エルベギセル、ナミギセル、ナミコギセル、ウスペキギセル

- (5) パツラマイマイ科 パツラマイマイ
- (6) コハクガイ科 コハクガイ
- (7) ナメクヂ科 ヤマナメクヂ
- (8) ベツコウマイマイ科 カサキビ、ハリマキビ、キビガイ、ミドリベツコウ、オオヒラベツコウ、ウラジロベツコウ、ハクサンベツコウ、ツノイロヒメベツコウ
- (9) ナンバンマイマイ科 コシダカコベソマイマイ、スターズマイマイ、ココロマイマイ、ニッポンマイマイ、エチゼンピロウドマイマイ
- (10) マイマイ科 エチゼンケマイマイ、オオケマイマイ、ウスカラマイマイ、クチベニマイマイ、ハクサンマイマイ、ツルガマイマイ、コガネマイマイ、クロイワマイマイ、本種は日本産かたつむり中最大最美のものである。

この調査報告については、和泉村、末永秀一 氏 三橋 氏 福井市 下野谷豊一 氏 中林良介氏 等のご助力によることを深く感謝します。

参考文献

- 1 今泉吉典著 原色日本哺乳類図鑑
- 2 小林桂助著 原色日本鳥類図鑑
- 3 中村健児 著 原色日本両生爬虫類図鑑
上野俊一
- 4 石川県野鳥の会 石川の野鳥
- 5 福井県教育委員会 穴馬の民俗